

CELERY



No.22
1995



中村学園大学 中村学園短期大学 / 広報

平成七年度

就職戦線に挑む!

景気低迷が続く中、スタートした今年の就職戦線の状況について学生課からの報告と、学生の就職活動レポートを紹介する。

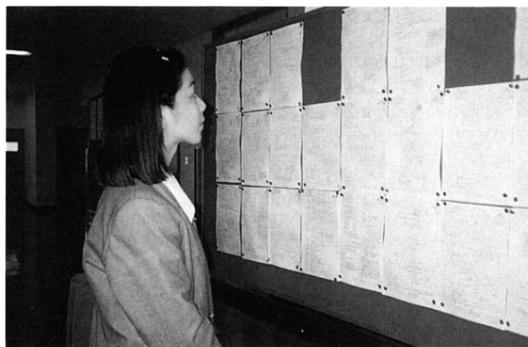
就職状況について(学生課)

急激な円高や個人消費の落ち込みなど、経済に不安定な要因を抱えたまま突入した本年度の就職戦線は、大学女子の求人倍率が四・五倍(リクルートリサーチ調べ)という数字が示すように、近年にない厳しい状況になっています。この厳しい就職環境下で、本学学生もかなり苦戦を強いられており、「就職氷河期」と形容された昨年の状況と比較して、九月末における求人受付件数は大学で一・三%、短大において五・七%ダウンしています。

栄養士や幼稚園教諭・保育等の専門職については、これから就職活動が本格化してきますが、求人数が増加する要因が見当たらないため、昨年並みか若干減少することが予想されます。未内定者は、就職先が決定するまでねばり強い活動が必要です。学生課においては、より多くの求人情報の収集に取り組み、学生一人ひとりの事情に即した就職指導を心掛け、卒業までに一人でも多く就職が決定するよう支援していきます。

なお、この厳しい就職戦線に打ち勝つために、学生は、次の点に注意して今後の活動に取り組んでほしいと思います。

- 一、「意欲の高い優秀な学生を採用したい」という企業に対し、安易な気持ちのまま採用試験に臨み、準備不足を今更ながら後悔する学生が少なくありません。就職活動の基本である自己分析(身近なこと等)を行い、自分が社会に出て何をしたいのか、という目的意識を再確認すること。
- 二、会社の知名度や所在地で受験先を選択する学生を多く見受けま



越えること。

そのため学生課担当者との連絡を密にし、最後まで辛抱強く活動を続ける姿勢が大切です。

就職活動レポート

大学 管理栄養士専攻四年 大村 郁 恵



三年次の十一月にあった最初の就職説明会から、私は就職について真剣に考え始め、食品会社と公務員の併用で就職活動をすることを決めた。

最初は何かからしていいのかわからず、学生課へ相談に行き、就職資料室の企業別ファイルで、気になる企業をピックアップして、情報収集を始めた。同時に、他大学の友人から、企業データ集と専用葉書をもらい、数多くの食品関係の企業に資料を請求した。(男子は女子より情報が早く得られるので、企業の動向なども教えてもらった)資料を請求しても送ってこない企業には、電話をして、採用人数やセミナーの日程を聞いた。一日二十社くらい電話した日もある。その時に、嘘を言われたり、一日中繋がらないところもあった。

就職を考えていた企業の一つに資料請求をしたところ、「週に二〜三回、研究所見学会を行っている」ということだったので、春休みには、自費で東京に行き、参加した。見学会には、関東を中心に六十人くらいの学生が参加していた。その企業には、卒論のテーマについてのレポート提出を求められたが、研究テーマが合わないという理由で断られた。しかし、東京の学生の就職活動の様子など聞くことができ、行って良かったと思った。

活動を進めていくうちに、食品会社の研究や商品開発等の職場は、募集対象に制限があり、大変厳しいことが見えてきた。そこで総合職を目指し、企業データを見て、行きたいと思っていた会社でも、セミナーに参加すると「違う」と感じることもある。逆に、時間があるからと説明を聞いた企業に魅力を感じたこともあったので、セミナーには積極的に参加すべきだと思った。

最初に見えてきた。そこで総合職や、製菓業、サービスマンなどにも目を向けた。

企業データを見て、行きたいと思っていた会社でも、セミナーに参加すると「違う」と感じることもある。逆に、時間があるからと説明を聞いた企業に魅力を感じたこともあったので、セミナーには積極的に参加すべきだと思った。セミナーの後は、だいたい適性検査や筆記試験、そして面接がある。面接では、資料室にある先輩のレポートに載っているようなことが聞かれたが、「転職は可能ですか」というような思いがけない質問もあった。特に、自分が本に行きたい企業の場合は、聞きたいことを事前に考えておくのが良いと思う。ちなみに、私は、他の人と質問が重なったときも考えて、十項目ほど質問を考えて、面接に臨んだ。

最初に内定した雪印乳業が、希望していた食品会社の総合職だったので、就職活動はそこで止めたが、内定するまで、面接日以外の企業と重なるなど、かなり悩むこともあった。

さて、今年も不況で、就職では女子の二浪や一人暮らしは不利と言われていた。私は一浪の大卒だが、浪人を指摘されて落ちた会社はない。要は流されずに前向きにその会社に入りたいという意欲を持つことだと思う。

'95キャンパス公開

—1000名を超える受験生と 父母が熱心に参加—

の盛況だった。

〔四月に再び このキャンパスで〕

キャンパス公開に参加した受験生から寄せられた感想を見てみると、「入学案内や資料だけでは分からなかったことが、実際に施設・設備を見たり体験したりすることによって、より身近なものとして理解できました」とあるなど、本学への理解と入学の意欲を高めるための大きな参考となったようだった。このキャンパス公開に参加した受験生の皆さんと来年四月に本学の学生として再会できることを願っている。

(今年も大盛況)

受験生とその父母を対象にしたキャンパス公開が、八月五日に開催された。今年も、開催日を週末の土曜日としたこと、また時間も昨年は午後のみだったが、今年は午前十時から始めたこともあり、受験生だけで約千名が参加。中には、鹿児島や宮崎など遠方から車で駆けつけた受験生とその家族もあった。

(好評の模擬講義)

今年の模擬講義は、各学科とも午前、午後の二回、次のとおり行われた。

- ①食物栄養学科・食物栄養科 「生命の誕生から老年期にいたる栄養学の実践」(城田知子教授・林辰美助教授)
- ②児童学科・幼児教育科 「心理学 錯視」(図版提示による体験学習)(山下功教授)
- ③家政科 「言葉遣いと人間関係」(浅岡柚美講師)―午前実施 「パソコン操作方法入門」(酒見康廣助教授)―午後実施



△本学在学学生から、学生生活の話しを熱心に聞く受験生。

「肥満と栄養」をテーマに

アジア栄養科学ワークショップを開催



第四回アジア栄養科学ワークショップ(主催 中村学園大学栄養科学研究所、協賛 日本コカ・コーラ株式会社)が、九月三十日に西一号館十階の大講義室を会場に開催された。今回は、「肥満と栄養」をテーマに、これらの分野の研究をリードしている四氏による講演と「ディスプレイ」が行われ、会場には県内外の研究者や一般市民、学生など約百六十名が参加。熱心に聴講していた。

スライドを使用した講演では、まず徳永勝人氏(伊丹市立伊丹病院内科)が「肥満の動物モデル」というテーマで肥満動物モデル(視床下部性肥満・食餌性肥満・遺伝性肥満)の特長や、肥満遺伝子の発見、動脈硬化のモデル動物など最近の研究成果について講演された。

続いて、中村正氏(大阪大学医学部第二内科)が、「肥満と内蔵脂肪」という演題で、特に腹部の内蔵脂肪の蓄積が成人病の危険因子の発症の原因として重要であることを明らかにした研究結果の報告と、この内蔵脂肪の軽減のためには、運動を含めた生活指導や食事指導が大切であるとの指摘をされた。

さらに、坂田利家氏(大分医科大学医学部第一内科教室)は、「脳機能から見た肥満の成因と対策」について、食欲の調節を制御している脳中枢の仕組みと、肥満症との関係、そして肥満症の治療では、食行動において自然な空腹感や満腹感を取り戻すため、咀嚼法などにより感覚(空腹感や満腹感)を修復する必要があると指摘された。

最後に、本学食物栄養学科・伊藤和枝教授から、「肥満の是正の実際」というテーマで講演があり、健康増進センターで行われている肥満クリニックの実際を紹介しながら、食事と運動による肥満の是正の成果について考察された。

肥満は、身近な現象であり、脂肪のつき方によっては、糖尿病や高脂血症になってしまうほど、成人病に密接に関わっている。一方では、様々なダイエット商品の氾濫など、使用する側にも肥満に対する知識が必要とされている。今回のワークショップでは肥満のメカニズムや医学的な治療に対する知識を得る上で、意義のあるものになったと思われる。

より良い生活を考える

公開講座を終了

平成七年度の公開講座が九月二日・十六日・三十日の三回にわたって開催された。受講者は百六名、平均年齢四十八歳、最高は八十歳の方が熱心に聴講されていた。テーマは「ホームエコノミクスからの提言 現代生活と健康」。住環境や食生活、少子化や高齢化など現代生活を取り巻く環境の変化は著しい。日々をいかに健康で過ごすかは、社会生活の最小単位であり、各人の生活基盤である家庭の幸福と平和に大きな影響を及ぼす。

今回は、本学の五名の教授と、九州大学の村田豊久教授により講義が行われたが、身近かなテーマであるだけに、参加者はノートを取る手にも力が入っているようだった。

三年連続で受講されている高橋みさおさんは八十歳。「どんどん進んでいく世の中の動きについていくのは大変だけど、若い人には負けないですからね」と、旺盛な向学心をみせておられた。



回	月/日	講義題目	講師
1	9/2 (土)	開講式・オリエンテーション	学長 山元 寅男
		生涯発達と健康	九州大学教授 村田 豊久
		環境と健康	教授 石西 伸
2	9/16 (土)	物理的環境と食生活	教授 波平 元辰
		教育と人間 —健康な人間とは—	助教授 青木 英実
3	9/30 (土)	内発的学習意欲	教授 石田 梅男
		現代社会と人間関係	教授 福田 靖
		閉講式・修了証書授与	学長 山元 寅男

教育ワークショップを開催

— 学生も意見を語る —

本学教職員の大半が参加する教育ワークショップが、今年も九月十九日に行われた。今回は「ファカルティ・ディベロップメント」を課題に、青木英実助教授、古賀信幸助教授の講演と、在学生五名による実直な意見発表があった。青木助教授は「ファカルティ・ディベロップメント」の定義とその発展の背景などを述べた後、学生へのアンケートをもとに、講義方法に関する反省と改善への試みを語った。また、古賀助教授は、講義や実験・実習、卒業指導などを通じて、学生との関わりの中が

感じたことを中心に、学生との接し方についての思いを語った。続いて行われた学生の意見発表では、多くの教職員を前に多少緊張しながらも、学ぶ側から感じている講義内容の問題点や施設・設備の改善充実、学生生活へのさらなる配慮についての意見や要望を堂々と述べてくれた。

このワークショップでは、教員一人ひとりの教育に対する新たな意欲の喚起を促すとともに、学園全体で取り組まねばならない問題点を、ある程度明確にできたものと思われる。

学習教材もパソコンで作成 情報処理講習会

本学学生および教職員を対象にした情報処理センター夏季講習会を、九月四日から十四日まで開催した。

この講習会は、統計処理や、学習教材作成用パソコンソフトの操作方法を実習する入門コースとなっており、卒業論文の作成や教員を目指す学生と教職員二百七名が熱心に受講していた。

現在、情報処理に関する教育は、小学校からすでに始められており、



とくに将来教員を目指す学生にとっては、今後こつこつとしたパソコン実習の必要性は益々高まると思われる。

もうすぐ学園祭

今年のテーマは「うえ〜ぶ」

実行委員長(大学・児童教育学専攻)二年 黒田 和 宣

今年の学園祭は、十一月三日から五日までの三日間行われます。テーマは「うえ〜ぶ 波にのってけのまれるな のらなきやそんたよ 霜月祭」です。「うえ〜ぶ」という短いけれどインパクトのある言葉に、今までと違った新しい波を、一致団結し、作り出していくという意気込みを託しました。



△作業中のスタッフ一同

スキャンバスコンテストや一般の学生も参加できる集団お見合い。

そして、最終日(五日)の後夜祭では、十月から始まったTVドラマ「未成年」に出演中の、河相我聞のコンサートが目玉となります。このほか三日間を通して、掘り出し物がいっぱいの子チャリティー・ガレージセールや子供が喜ぶお化け屋敷、味が自慢の中村ならではの食品バザーなども行われます。

学園祭に来てくれる人たちに、楽しい「波」に乗ってもらいたいという思いと、世間の波にのまれず、それを乗り越え前進していきたいという気持ちをこめて、現在スタッフ全員で、一生懸命準備を進めています。

子どもの心 (19)

児童学科・幼児教育科 助教授 安部 恒 久



先日、こんなことがありました。私の5歳の子(男)が近くのお兄ちゃんが作ったパチンコ台で遊んでいるうちに玉を飲み込んでしまいました。遊んでいたお兄ちゃんがびっくりして連絡にきました。でも、どうせ、ウンチとつしよに朝になったら出るだろうと、それほど心配はしませんでした。

ところが、朝になってトイレに行くかなとそれとなく観察するのですが、なかなか行く素振りがありません。「どう、トイレは?」と誘いの言葉をかけてみたりしますが、「ない」と行きません。あまり、しつこく言うと、「言わん」と腹を立てます。こうなれば、本人が行きたくなるときを待つしかない、心配ながらも放っておくことにしました。

夜になりましたが、トイレに行く気配はありません。自分でも気になるのか、さかんにお腹をさすっています。寝ていてもガタツと動く様子があると、トイレかなと気になって、とても熟睡とはいきません。

ようやく、三日目の朝になってトイレに行きました。そして、玉を放出しました。あつた、あつたと大喜びです。これでひと安心と水を流しました。ところが、こどもは「あ、どうして流したの?」と言います。怒っている理由がわかりません。きいてみると、あの玉をお兄ちゃんに返すつもりだったと言うのです。「お腹から出てきたものなんて、誰が返してもらおうなんて思う?」と大笑いしましたが、こどもは「返さないかん」と真剣でした。

こどもの心、それはとても複雑なものようです。



△三原先生と会員

(卒業生から)

「筑紫地区教専卒業生の会」便り

勝野 洋子 (大学児童学科 昭和60年卒業)

大学を卒業して十年が過ぎました。児童教育学専攻の第三回の職についたときには、同じ中村の卒業生と職場で出会うことはほとんどありませんでしたが、三年もたつと一緒になる機会も増えてきました。

そこで、筑紫地区に勤務する卒業生が集まり、親睦を深めるための会を持ちたいと考えました。最初は、太宰府天満宮の菖蒲池の茶屋で、梅の花が美しい季節に開きました。

その後、この会は、毎年在学中に指導していただいた三原晴先生や三谷勝彌先生を囲んで梅の花の匂うころ、天満宮の茶屋を会場にして開いています。亡くなられた末松慶和先生も生前は毎年おいでいただきました。

この会では、現場での体験談や実践記録を紹介するなど、内容も毎年充実しています。三原先生からは、この会に「東風の会」という名前もつけていただきました。会員は現在三十四名で、今後多くの卒業生を迎え、よき仲間を増やしていきたいと考えています。

木洩れ日の中につづく小道の、このゆるやかなカーブで彼は立ち止まり、手を後ろに組んだ独特のポーズで足元の小川のせせらぎをしばらく眺め、やがて、視線を上げて、木立の中に見え隠れしながら森の方へつづく小道と、その先のマロニエの木の下に輝くせせらぎの方をしばらく眺めてから、思い出したように再び歩を進めた。……。

あれから二百年近い時が流れているが、彼がよく散歩をしたというこの小道はまだ残っていた。

この一歩、この足が彼の足跡に重なっているかもしれない。そう思うと感慨きわめて深い。

この、木洩れ日の光と陰、せせらぎの輝きと音、木の葉越しに見える空の青さ、爽やかな風と緑の匂い、彼が好んで此処を散歩した訳が納得できる。

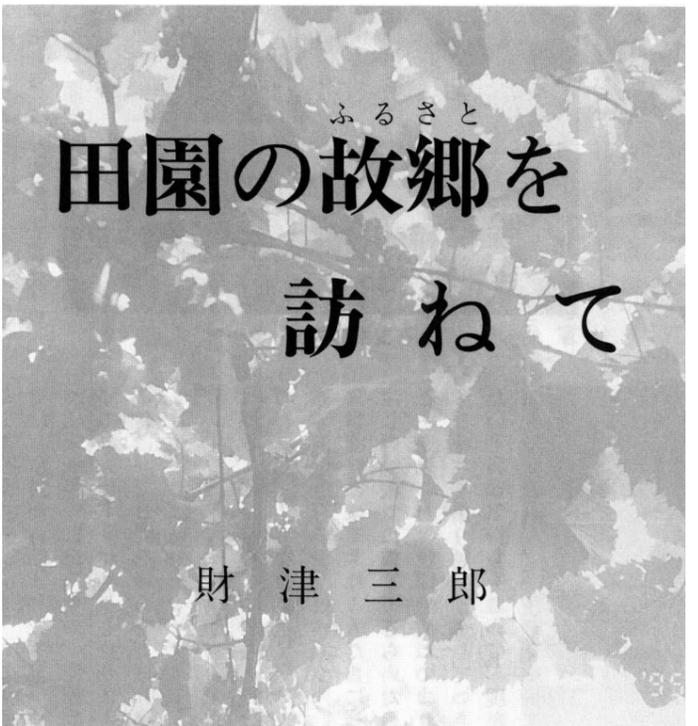
彼が此処で第六交響曲の楽想を得てから重ねた二百年近い歲月は、樹木を大きく育て、周りの林野に家も増やしている筈だ。それでも此処には、あの第二楽章のモチーフ以外は似合わない。

ウィーンの森の麓、ハイリゲンシュタットの Beethoven Gang (ベートーベンの小道)を三十年来の夢叶って訪れた印象である。

平成七年度外国研修に派遣され、海外教育視察団に参加。七月二十二日から三週間にわたりヨーロッパ

パハカ国を視察した。ハイリゲンシュタット訪問は、七月二十七日ウィーン大学でのセミナーを終えて、その午後シェーンブルン宮殿等の半日観光を後ろ髪ひかれつつ辞退して実現した。

した偉大な作品群は周知のとおりである。一九九五年七月二十七日十六時、ハイリゲンシュタット遺書の家(プロブス通り六番地)を訪ね、彼の部屋に立った。弾き手を失ったピアノがボソソ



財津三郎

て致命的な耳の病を得て絶望のあまり死を決意し、此処ハイリゲンシュタットで遺書を書いた。一八〇二年、三十一歳だった。

とある。本物の遺書が目前にある。直筆の楽譜がある。遺書に比べて丁寧な筆跡だ。賑ませてきたイメージの世界との、現実の超適に感慨一人。地に足が付かないとはよく言ったものだ。「四時半マデテスヨ」と管理人

のおばさんから声をかけられた。時計に目をやると四時半。「もう少し」と言う貸し切り状態の私の願いに、おばさんはそれから暫くこやかに付き合ってくれた。このふれあいも或いは楽聖の為せるわざか。おばさん心から礼を述べてその家をあとにした。

九時半に黄昏を迎えるこの地では、このとき陽はまだ高く白昼の趣ときめき冷めやらぬままに石畳を少し歩いて、ベートーベンハウス(プファール広場二番地)を訪ねた。

今有名なハイリゲ(F・マイヤー)になっているが、一八一七年の夏に彼はここに住んだ。

昔ながらの典型的な農家の佇まいを残すこの家の、中庭に設えられた如何にもハイリゲらしいグリインのテーブルについて、ワインをオーダーした。取っ手付の、ピアジョッキ一程の大きなグラスに溢れんばかりに注がれた白ワインが恰幅のいい民族衣装のお嬢さんに運ばれてきた。

冷え加減よろしく、ぐいっとひとくち飲んで、ふと見上げると、陽よけの葡萄棚と、葡萄の若い房とそのやさしい緑の葉陰に垣間見える青い空と、おだやかな風に揺らぐ陽射しがあった。

カーレンベルクの丘で見た、ゆるやかな丘陵一面の葡萄畑と牧草地、そして遙かなドナウもこの陽射しの中に展開していた。



ベートーベンの散歩道とその道

田園の故郷は、その面影をいまに伝えて、日出する国からの来訪者を暖かく迎えてくれた。

私をここに招き寄せたのも、私が今ここにいるのも、有形のものも無形のものも、時間とともにある歴史である。

歴史は「いま」に生きつづけている過去……。ワインがゆつくりと身体に染み込むように、この思いは次第に穏やかな実感となつていった。

夏休み活動レポート

記録的な猛暑が続いた今年の夏。この暑さにも負けず、研修やボランティアにチャレンジした学生をレポートする。

(その1) オーストラリアでの貴重な体験 — 海外語学研修に参加して —

大学 管理栄養士専攻 二年 宮本 香那

去る八月四日、前期試験を終えた私たちは、猛暑の福岡を発ち、翌日オーストラリア南部にあるメルボルンに到着した。

オーストラリアの八月は真冬で、到着した日はとても寒く風も冷たかったが、これから三週間通つことになるメルボルン大学で、ホストファミリーの温かい迎えを受け、いよいよ研修が始まった。

今年の研修参加者は、昨年より九名多い四十名で、三クラスで編成された。研修期間中は毎日午前中に、英語の日常表現やネイティブな発音などを三名のオーストラリア人講師から楽しく学び、午

後は小旅行に出掛けるというスケジュールで過ごした。

最初は、期待と不安で緊張していた私も、三日も過ぎるとだいたいに生活様式や言葉にも慣れてきて、辞書を片手にしながらも会話を楽しめるようになっていた。

自然が美しい所に行つて、思いきり緑に染まったり、歴史のある場所でも思いに耽つたりと、「旅行」では味わえない日々を満喫する一方で、ホストファミリーとの友情を築きあげながら、充実した三週間はあっという間に過ぎた。別れの日には、涙が溢れ、再会を約束してシドニーへ移動。ここ

で三日間を過ごした後、八月三十日に帰国した。一ヶ月が過ぎた今、この研修を通じて得たものを考えると、本当に参加してよかったと思う。オーストラリアは旅行で行くより住みたいと感じさせる、そんな魅力を持った国だった。



△ホストファミリーとのお別れパーティーにて(右端が宮本さん)

(その2) 小児糖尿病サマーキャンプ — 栄養士としてのやりがいを知る —

大学 食物栄養学専攻 三年 田畑 華子

小児糖尿病サマーキャンプは、医師、栄養士、看護婦などがスタッフを組みます。今年も八月に朝倉郡夜須町夜須高原のやすらぎ荘で一週間行われました。

私は、一年生の時このキャンプのことを知り、栄養士とは実際どんなことをするのか興味をもったのがきっかけで、参加しました。参加希望者には勉強会が催され小児糖尿病とはどんな病気なのかまた栄養士として何をするのか、などを教えられます。

二年生では、テストと面接を経てメンバーに決定すると、三年生とペアを組み担当の日の献立を考えます。リハ・サルでは先生や看護婦さんからのアドバイスを受けながら、何回もやりなおしながら一生懸命献立を作り上げました。

このキャンプでは、糖尿病との付き合い方を教えるほか、バイキング、おかし作りなど様々な行事も用意し、子供たちとますます仲良くなりました。

おかし作りでは、クッキーの生地を作るところから子供たちに行ってもらいます。自分の好きな形に作った生地を、スタッフが焼きあげるのですが、それぞれの個



△食事指導を行うスタッフ(左から2番目が田畑さん)

性が出て、おもしろいクッキーが出来上がりました。

昨年は二泊三日で参加しましたが、その時は、栄養士は大変だという印象が残ったのですが、今年は一週間参加して、栄養士という仕事のやりがいや喜びを知ることができました。机の上の勉強だけでなく、実際に小児糖尿病の子供と接することで様々なことを学び、貴重な体験をする事ができたと思います。大変なこともありましたが、このキャンプに参加して本当に良かったと思つていきます。

配ったり、テレビやラジオに出演して、関心を引くよう頑張りました。

「最初はあまり盛り上がりませんでした。ええ。ですから、天神でピラを配ったり、テレビやラジオに出演して、関心を引くよう頑張りました。」

「顔見知りの選手というところ？」

「一五〇メートル自由形で金を取った安井選手や、リレーに出場

「いろいろな国の選手から書いてもらったポロシヤツイっぱいのサインは私の宝物です。」



△サッカーの応援をする徳永さん（左）



△ボランティアをした選手村のレストランにて宮本さん（左）

インタビュー

ポロシヤツイっぱいのサインは宝物
チーフサポーターで盛りあげる

大学 食物栄養学専攻 一年 徳永 幹子

「ユニバのボランティアをしようと思ったきっかけは？」

「大学時代にやれることをやっておきたかったし、高校時代から福祉関係に興味があって、何か人の役に立つことをしたかったのです。そんなときに大学に掲示されていたチーフサポーター募集のポスターを見て応募しました。チーフサポーターというのはどのようなことをするのですか？」

「ユニバを盛り上げるのが主な仕事です。公募によって選ばれた二十四名が十二競技のチーフサポーターとなっています。『友達を連れて応援しよう。日本だけでなく、他の国の試合も見たい』という活動なんです。」

「最初はあまり盛り上がりませんでした。ええ。ですから、天神でピラを配ったり、テレビやラジオに出演して、関心を引くよう頑張りました。」

「大会が始まってからはどうでしたか？」

「いざ、始めてみると、すごい盛り上がりで安心しました。私が最初に見に行った競技は、ブラジル対イギリスのサッカーの試合でした。実は、サッカーのチーフサポーターといながら、私はあまりサッカーに詳しくなかったんです。でも、博多の森の美しい芝生の中で躍動する選手達を見ているうち、だんだん引き込まれていって、「一生懸命」というのが伝わってきて、とても良かったです。」

「一番印象に残った試合というところですか？」

「水泳の決勝です。まず、観客が多かったのがとても嬉しかったです。テレビ出演などを通して、顔見知りになった選手を思いっきり応援しました。」

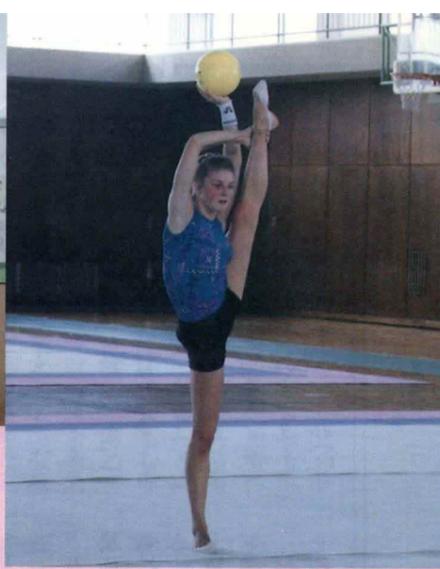
「最後に、ユニバシアードを振り返ってどうですか？」

「私は、佐賀から通っていたので、ボランティアなので、交通費も出ないんです。それでも、他大学の学生、高校生、社会人から、他の国の人まで幅広く知り合いになりました。貴重な経験をさせてもらって、やった価値はありました。」

「いろいろな国の選手から書いてもらったポロシヤツイっぱいのサインは私の宝物です。」



△イギリス選手団



△本学の体育館は新体操の練習会場となりました

(その3)

ボランティア体験記

ユニバーシアードin福岡オカ

学生のオリンピック、95ユニバーシアード福岡大会が、八月二十三日から九月三日までの十二日間、世界百三十の国や地域から六千人を超える選手、役員が参加し、福岡市をメイン会場に行われた。この大会では、ボランティアの活動が大会運営の大きな力となっており、本学からも、バレーボール競技に百二十名の学生が参加したほか、一般ボランティアにも多数参加している。その中から、二人の学生にスポットを当て活動の様子を聞いてみた。

平和への願いを痛感した選手村

大学 管理栄養士専攻 四年 宮本 徳子

私は八月十六日から九月三日までの十七日間、一般ボランティアとして選手村に通いました。選手村内への出入りにはADカードが必要ですが、ボランティアは自由に入村できます。私の配属先は、選手村・サービス課業務班。いわゆる村の「なんでも屋さん」で、選手が快適に過ごせるよう各施設の監視、管理、清掃を行いました。今大会は世界百三十ヶ国約六千人の選手・役員が参加があり、連日大変賑やかなものでした。人種・言葉・肌の色・習慣・それはもう様々です。こんなに多くの外国人を見たことがなかった私にとって、毎日が驚きの連続でした。英語を話せないのに、必要最小限の単語を使ってレストランの入場監

視をしましたが、これが思いのほか通じ、嬉しくて、それからは自己流(?)の英語で選手達とコミュニケーションをとりました。選手達は陽気に「ハロー」「こんにちは」と声を掛けてくれます。顔なじみの選手もでき、出身地や試合結果などを直接聞いたことは、大変貴重な経験でした。日本女子バスケットボールの選手とも仲良くなり、「頑張ってください」と声を掛けるとともに、自分も頑張らなければと勇気づけられた気がしました。

トレーニングルームでは、選手達の真剣な姿を見ることができました。体つきは筋肉隆々で、無駄な脂肪がどこにもありません。片方二〇kgのダンベルを、片手で

ひよいひよい持ち上げます。私も興味津々、持ち上げようとしたのですが、「腰を痛めるよ」と選手に言われてしまいました。

選手がリラククスできるように、村にはゲームセンター、ディスコ、ビーチ、小動物園など、様々な施設があります。その中に市民との交流の場としてふれあい広場があったのですが、盆踊りや各国の伝統芸能、ライブなど連日イベントが催されました。

選手は日本文化に触れる事が大変嬉しいらしく、お茶、生け花、書道教室などに参加していました。また、ハッピーや忍者の恰好をした選手達が見られる姿もあり、見ものでした。常設してある折り紙教室はいつも選手がいっぱいで、皆真剣に鶴を折っていました。鶴に自分の名前を書いて壁にはります。創られた文字は、

「WE WISH PEACE. (平和を願って)」「選手たちの平和への願いが強く感じられました。政治や内戦等様々な問題を抱え、対立している国もあります。しかし平和への願いは皆同じだということ、そして友好の輪を、スポーツを通してこの大会で広げることができてよかったと思います。まさに「スポーツは国境を越える」ということを痛感しました。」

閉会式で「福岡大好き」や「ボランティアの皆さんありがとう」などと書いた布を持つ選手たちの姿を見て、胸が熱くなりました。「友好」を深めた価値ある大会をここ福岡で、しかもボランティアとして一緒に体験出来たことは、私にとってかけがえのない思い出となりました。この貴重な体験を人生の一つのバネにできればと思います。

平成六年度決算について

学校法人中村学園の平成六年度決算は、三日間に亘る監事の監査を経て、去る五月二十九日の評議員会及び理事会において承認されました。

学校法人の会計は、私立学校振興助成法が定める学校法人会計基準に基づいて資金収支計算書、消費収支計算書の二つの会計方式からなっています。資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての資金（現金、預貯金）の収入・支出を明らかにするものです。一方、消費収支計算書は、民間の企業の損益計算書に相当するものであり、財政の健全化を測定する一つの尺度となります。

平成六年度の資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表について主な事項は次のとおりです。

一、資金収支計算書

学園全体としては、昨年十一月十一日に学校法人中村学園創立四十周年記念式典及び祝賀会を挙行了しました。

また、中村学園事業部からの寄付金については、前年度までは各学校において受け入れていたものが、今後の国際化に向け、事業部の寄付金を基に「中村学園国際交流基金」を創設することとし、初

年度基金として三、〇〇〇万円組入れたりました。

「大学院・大学・短期大学関係」収入の部では、学生納付金の入学時施設費等の一部を改定しました。補助金収入については特別補助金で六、七四七万円増、借入金等収入は隣接地購入のため、市中銀行から六億円の借入れとなりました。

支出の部の教育研究費については、

- マレーシア国立大学との共同研究費
- 教員一名海外研修費
- 国際学会発表旅費
- 地域住民への「健康・栄養クリニック」の開設
- 学生へのサービスを考慮した教務課のオフコンのプログラム
- △料
- 保健室・非常勤講師室の改造工事
- 一、七三〇万円

その他、学友会館談話ホールの冷暖房工事や大学昇降口の改修、健康増進センター改造工事等、教育研究環境整備の充実に努めました。

「女子中学校・女子高等学校」

女子中学校の授業料の一部を改定、なお、補助金収入は前年度に

- 教員一名の海外研修旅費
- 運動場廻り塀建て替え
- 一、二五〇万円
- 第一棟屋上防水改修工事
- 八七〇万円

その他、教室の床張替え、小会議室、コンピュータ室の床の改修工事等の施設の整備を行いました。

「三陽中学校・三陽高等学校」

補助金収入は前年度に比し、五・九％の増となり、支出の部では、教員の海外研修二名の費用や中学生募集のポスターを作成し生徒募集に力を入れました。

施設設備関係では、高等学校棟三、五階の教室及び階段教室の冷房設備三、八一〇万円等、施設の充実を行いました。

「あさひ幼稚園・志岐幼稚園」施設設備関係で、あさひ幼稚園の運動場東側方面の整備、志岐幼稚園では、園内放送設備取り替えや遊戯室に暗幕を新設し、整備を行いました。

平成6年度消費収支計算書

平成6年4月1日から平成7年3月31日まで

科	目	予	算	決	算	差	異
学生生徒等納付金	収入	4,120,220,000		4,123,579,500		△	3,359,500
手数料	収入	154,140,000		161,388,450		△	7,248,450
寄付金	収入	14,610,000		20,109,786		△	5,499,786
(現物寄付金)	収入	(6,460,000)		(11,862,742)		(△)	5,402,742
補助金	収入	1,107,990,000		1,254,682,157		△	146,692,157
消費収支	収入	46,340,000		46,732,175		△	392,175
事業収入	収入	189,060,000		202,171,235		△	13,111,235
雑収入	収入	79,920,000		83,124,955		△	3,204,955
借入金	収入	600,000,000		600,000,000			0
借入金	収入	1,172,290,000		1,320,976,500		△	148,686,500
その他収入	収入	69,470,000		83,061,902		△	13,591,902
資金収入調整勘定	収入	△ 1,253,950,000		△ 1,253,484,080			465,920
前年度繰越支払資金	収入	1,538,190,000		1,538,220,407		△	30,407
収入の部合計		7,831,820,000		8,168,700,245		△	336,880,245

平成6年度資金収支計算書

平成6年4月1日から平成7年3月31日まで

科	目	予	算	決	算	差	異
学生生徒納付金	収入	4,120,220,000		4,123,579,500		△	3,359,500
手数料	収入	154,140,000		161,388,450		△	7,248,450
寄付金	収入	14,610,000		20,109,786		△	5,499,786
(現物寄付金)	収入	(6,460,000)		(11,862,742)		(△)	5,402,742
補助金	収入	1,107,990,000		1,254,682,157		△	146,692,157
消費収支	収入	46,340,000		46,732,175		△	392,175
事業収入	収入	189,060,000		202,171,235		△	13,111,235
雑収入	収入	79,920,000		83,124,955		△	3,204,955
借入金	収入	600,000,000		600,000,000			0
借入金	収入	1,172,290,000		1,320,976,500		△	148,686,500
その他収入	収入	69,470,000		83,061,902		△	13,591,902
資金収入調整勘定	収入	△ 1,253,950,000		△ 1,253,484,080			465,920
前年度繰越支払資金	収入	1,538,190,000		1,538,220,407		△	30,407
収入の部合計		7,831,820,000		8,168,700,245		△	336,880,245

支出の部(単位円)

科	目	予	算	決	算	差	異
人件費	支出	3,096,770,000		3,071,736,607			25,033,393
(退職金給付引当金繰入額)	支出	(77,970,000)		(77,099,014)			(870,986)
教育研究費	支出	1,093,750,000		1,049,322,663			44,427,337
(減価償却費)	支出	(339,340,000)		(335,223,229)			(4,116,771)
管理経費	支出	319,980,000		302,411,401			17,568,599
(減価償却費)	支出	(64,200,000)		(63,368,983)			(831,017)
借入金	支出	62,400,000		62,368,021			31,979
資産処分	支出	2,500,000		2,483,965			16,035
(予備費)	支出	(620,000)					
	支出	14,280,000					14,280,000
消費支出の部合計		4,589,680,000		4,488,322,657			101,357,343
当年度消費収入超過額		665,840,000		970,109,613			
前年度繰越消費支出超過額		3,196,250,000		3,196,252,128			
翌年度繰越消費支出超過額		2,530,410,000		2,226,142,515			

支出の部(単位円)

科	目	予	算	決	算	差	異
人件費	支出	3,034,760,000		3,008,183,318			26,576,682
教育研究費	支出	754,410,000		714,099,434			40,310,566
管理経費	支出	255,780,000		239,042,418			16,737,582
借入金等利息	支出	62,400,000		62,368,021			31,979
借入金等返済	支出	104,520,000		104,509,297			10,703
施設関係	支出	799,430,000		772,995,190			26,434,810
設備関係	支出	132,270,000		129,652,542			2,617,458
設備関係	支出	40,250,000		234,141,004			△ 193,891,004
その他	支出	120,850,000		121,057,480			207,480
(予備費)	支出	(10,000)					
	支出	14,890,000					14,890,000
資金支出調整勘定	支出	△ 95,170,000		△ 103,821,786			8,651,786
次年度繰越支払資金	支出	2,607,430,000		2,886,473,327		△	279,043,327
支出の部合計		7,831,820,000		8,168,700,245		△	336,880,245

貸借対照表

平成7年3月31日

科	目	本年度末	前年度末	増減(△)
固定資産	18,921,774,430	18,215,970,551	705,803,879	
有形固定資産	17,695,491,496	17,182,057,199	513,434,297	
土地	6,904,641,684	6,252,265,164	652,376,520	
建物	9,021,733,791	9,207,665,974	△ 185,932,183	
構築物	388,163,856	391,061,926	△ 2,898,070	
教育研究用機器備品	445,766,227	449,604,406	△ 3,838,179	
その他の機器備品	61,774,406	59,412,694	△ 2,361,712	
図書	826,507,372	771,974,070	54,533,302	
自動車	8,794,160	13,072,965	△ 4,278,805	
建設仮勘定	38,110,000	37,000,000	1,110,000	
その他の固定資産	1,226,282,934	1,033,913,352	192,369,582	
電話加入権	2,405,317	2,405,317	0	
有価証券	1,051,028,360	897,161,856	153,866,504	
収益事業元入金	20,000,000	20,000,000	0	
出資	25,628,140	24,027,640	1,600,500	
長期貸付金	117,117	1,888,539	△ 1,771,422	
第3号基本金引当資産	127,104,000	88,430,000	38,674,000	
流動資産	3,344,133,384	1,965,691,675	1,378,441,709	
現金	2,886,473,327	1,538,220,407	1,348,252,920	
預金	100,000,000	60,000,000	40,000,000	
有価証券	300,000,000	300,000,000	0	
特定金	56,419,080	66,475,204	△ 10,056,124	
未払	1,240,977	996,064	244,913	
資産の部合計	22,265,907,814	20,181,662,226	2,084,245,588	

科	目	本年度末	前年度末	増減(△)
固定負債	2,610,345,346	2,159,201,313	451,144,033	
長期借入金	1,481,199,000	1,093,608,256	387,590,744	
退職給付引当金	1,129,146,346	1,065,593,057	63,553,289	
流動負債	1,806,930,761	1,577,294,807	229,635,954	
短期借入金	212,409,256	104,509,297	107,899,959	
未払	103,821,786	120,812,567	△ 16,990,781	
前受	1,320,976,500	1,197,065,000	123,911,500	
前払	165,338,641	151,785,319	13,553,322	
受取	4,384,578	3,122,624	1,261,954	
負債の部合計	4,417,276,107	3,736,496,120	680,779,987	

科	目	本年度末	前年度末	増減(△)
第1号基本金	19,630,670,222	19,235,988,234	394,681,988	
第3号基本金	127,104,000	88,430,000	38,674,000	
第4号基本金	317,000,000	317,000,000	0	
基本金の部合計	20,074,774,222	19,641,418,234	433,355,988	

科	目	本年度	前年度末	増減(△)
翌年度繰越消費収入超過額	△ 2,226,142,515	△ 3,196,252,128	970,109,613	
消費収支差額の部合計	△ 2,226,142,515	△ 3,196,252,128	970,109,613	
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	22,265,907,814	20,181,662,226	2,084,245,588	

注記 1. 減価償却額の累計額の合計額 3,841,146,998円
 2. 担保に供されている資産の種類及び額は次のとおりである。
 土地 1,529,346,048円
 建物 391,006,661円
 有価証券 100,000,000円
 計 2,020,352,709円
 3. 退職給付引当金の額の算定方法は、次のとおりである。
 法人本部・大学・短大は期末要支給額1,024,868,000円から私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と交付金の累計額との繰入れ調整額を加減した金額を計上している。高等学校以下は期末要支給額825,313,000円から私学退職金財団からの交付金相当額を控除した金額を計上している。
 4. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うことになる金額 1,693,494,405円

ですが、学園全体としては、収入の部から支出の部を差引いた次年度繰越支払資金は、予算に対し二億七、九〇四万円の増加となりました。

二、消費収支計算書
 学園全体としては、前年度に対し帰属収入合計は一億五、四六〇

万円(二・七%)増加し、消費支出の部合計は、一億七、六六〇万円(三・七%)の減となりました。

基本金組入額は、施設関係支出、設備関係支出及び借入金等返済支出等合計で四億三、三三〇万円となり、消費収入の部から消費支出の部を差し引いた当年度消費収入超過額は、九億七、〇一〇万円となり健全な決算となっています。

三、貸借対照表について
 資産の主な増加は、土地、有価証券購入、現金、預金で、資産総額二百二十二億六、五〇〇万円となり、前年度に対し二〇億八、四〇〇万円(二〇・三%)の増加となりました。

健康生活のスズメ(20)

食物栄養学科・食物栄養科 助教授 加藤 祥子



新聞の戦後50年食生活の変遷という企画では、「食料難を克服、洋風化を経て飽食の時代を迎える」と書かれています。

私たちは、若々しく健康な人生を送りたいと願っています。昨今インスタント食品やレトルト食品などのほか、ファミリーレストラン、持ち帰り弁当店、惣菜店の出現により、食生活は簡便化し、好きなときに、好きなものを、好きなだけ食べられるようになりました。グルメ意識を持つ人も多くなりました。食品の第三次機能を利用した健康食品、健康飲料水のほかダイエット食品、無添加・無農薬と称する食品などが次々に市場に出回っています。しかし、これら食品類に期待をかけすぎではないでしょうか。

私の成長は戦争と共に始まり、学童期は戦後の食料不足の時期でした。現在、カルシウム不足を補うためにカルシウム入りのさまざまな食品が売られています。私の子供の頃を思い出してみると、食卓には常に魚粉があり、いろいろな食べ物にかけて食べました。焼いたいわしを頭からしゃばまで食べたものです。さらに日が暮れるまで外を駆けまわっていました。

健康のためには栄養・運動・休養が大切であるといわれています。今、私たちは、どれをも簡単に手に入れることが出来ますが、それらのバランスにどれだけ気を使っているのでしょうか。日常の生活においては、人それぞれが持つ体のリズムを大切にしたいものです。ストレスほど健康生活に悪影響を及ぼすものはないということを痛感している今日この頃です。

無理なく、安全に痩せるために 「健康・栄養クリニック」始まる



健康増進センター(センター長・中村元臣教授)による「健康・栄養クリニック」が、九月二日のオリエンテーションから約四か月の日程で始まった。
このクリニックは、地域住民の健康づくり、中でも肥満に悩む人

の減量と健康管理を支援するために開講しており、今回で三回目になる。
前回のクリニックでは、受講者十九名中十五名が、減量に成功するなどの成果を上げている。
こうした実績により、今回は、四百二十名という多数の応募者があったが、その中から二十名(男性六名・女性十四名)を対象に行っている。
内容は、健康度チェック・体力テストに始まり、食事指導・運動処方といったメニューで、医学・栄養学・運動生理学の専門家の立場から様々な指導を行っている。
なお、このクリニックの特徴は期間中の指導だけでなく、来年一月二十日の終了後、さらに四か月後、八か月後のフォローアップも用意されている点にある。
各受講者とも目標とする減量に向かつてスタートしており、その成果が期待されている。

「食は医なり」

西日本新聞の連載好評
今年三月から毎週一回、本学の大学院栄養科学研究科の教授陣を中心に執筆連載されている、西日本新聞の栄養科学シリーズ「食は医なり」が、読者からの好評を博している。

管理栄養士国家試験 管理栄養士専攻合格率 87.1%

五月二十一日に実施された第九回管理栄養士国家試験の合格者が六月十四日に発表された。今回の受験者総数は一万二千三百八十七名で、昨年より十七・四%増加したが、合格者総数は五千七百七十九名で合格率は四十一・八%と一四%減少した。
本学の大学食物栄養学科管理栄養士専攻の今年三月卒業生は九十三名が受験し、八十一名が合格、合格率は八十七・一%だった。
また、食物栄養学専攻では、今年三月卒業生十四名を含め、二十四名が合格している。短期大学食物栄養科については、卒業後一年以上の実務経験を経て受験資格が得られるが、六十一名が管理栄養士となった。
合格者氏名は次のとおり。なお紙面の都合上、今年三月卒業生のみを掲載する。(敬称略)
〔食物栄養学専攻〕
青木奈緒・井上知子・井口由紀子・北島工子・倉光裕之・坂本茉莉・田中あゆみ・平野由紀・向井絵美・彌永純子・山下亜由美・吉積美和・鷲津よし子・城康家
〔管理栄養士専攻〕
秋永純子・伊豆倉麻里・上村美子
内田和宏・梅本美里・大塚美香・岡本菜美・小山田友紀子・鹿子嶋織江・金子仁美・神近紀子・河野奈美・北原佳織・久保古都美・古賀曉子・堺智子・佐々木香苗・下釜由子・地福由佳利・高山希美・田中英子・蝶野亜希子・手島めぐみ・富田サヨ・中貴美代・中濱里香・中村桂子・則行淑子・林容子・平田直美・深田恭代・藤井浩美・松下純恵・松本瑞代・溝部文子・村上公子・安武温子・山村千代子・吉田多恵子・吉野亜希子・吉橋恵子・石田雅代・井上富紀子・魚住ひろみ・内野圭子・大石葉子・岡本勝代・折田直美・香月美帆・金子美穂・川浪ルミ子・岸原有紀・吉瀬綾・久保七重・近藤真由美・寒川順子・白石未央・高岩祐美子・徳美和・園聡子・出口裕子・外山聡美・中里文香・中原邦子・中村真紀・納富あすか・野崎真世・花井奈津枝・足田昭子・牧迫由香里・松永美子・松本直子・溝口智子・毛利百合江・守田佳代・柳池いずみ・吉川留美・吉田千恵・吉野香織・米澤啓子・渡真由美

平成七年度サークル加入状況 加入率は昨年を上回る

本学における平成七年度の公認サークルは、体育系二十一、文化系二十七の合計四十八サークルですが、化学部は休部中です。
このほかに、学友自治会組織として、自治会執行部、学園祭実行委員会、代議委員会があり、それぞれ活発に活動を展開しています。新入生に対する勧誘は、自治会の主催による四回の説明会のほか、各サークルの趣向を凝らした活動やポスターなどで行われました。
その結果、六月現在の加入状況は別表のとおりとなっております。
大部分のサークルが目標どおりあるいはそれ以上の新入生を確保しましたが、反面、過去にすぎらしい活動実績を有しながらも新規加入者がなく、維持、存続が危ぶまれる残念なサークルもあります。
大学・短期大学を合わせた全学生に対する加入率は四四%となっており、昨年度より四%上回りましたが、新入生だけを見ると、短期大学は六%増えたものの、大学は四%減っています。
全国的にみると最近では、サークルへの加入率が減少する傾向にあります。本学では、平成五年度

から少しずつではありますが増加傾向にあります。これは、先輩部員の努力による数々の活動実績と魅力あるサークル作りの結果によるものと高く評価しています。
サークル活動を通して得られるものは多く、今後も活発な活動を期待したいものです。(学生課)

サークル加入状況

No.	区分	サークル名	部員数	No.	区分	サークル名	部員数
1	合同	ソフト・テニス部	9	8	合同	美術部	19
2	"	硬式庭球部	47	9	"	軽音楽部	18
3	"	剣道部	17	10	"	漫画研究部	8
4	"	卓球部	16	11	"	吹奏楽団同好会	12
5	"	弓道部	16	12	"	キャラバン竹とんぼ愛好会	15
6	"	なぎなた部	7	13	"	夢を見よう会愛好会	35
7	"	軟式野球部	23	14	大学	華道部	16
8	"	N D A	13	15	"	写真部	7
9	"	合気道部	10	16	"	社会福祉研究会	62
10	"	バスケット同好会	86	17	"	化学部	休部中
11	"	バドミントン同好会	58	18	"	裏千家茶道部	22
12	"	水泳同好会	43	19	"	心理学研究会	12
13	"	ソフトボール愛好会	41	20	"	和歌愛好会	1
14	"	陸上愛好会	34	21	短大	華道部	15
15	"	サッカー愛好会	35	22	"	表千家茶道部	6
16	"	ラクロス愛好会	19	23	"	食物研究部	9
17	"	ラグビー愛好会	18	24	"	社会福祉部	19
18	大学	ワンダーフォーゲル部	31	25	"	写真部	9
19	"	女子バレー部	45	26	"	裏千家茶道部	28
20	"	男子バレー部	27	27	"	放送同好会	7
21	短大	短大バレー部	28			計	465
		計	623	1	大学	自治会執行部	9
				2	短大	自治会執行部	16
				3	大学	代議委員会	48
				4	短大	代議委員会	63
				5	合同	学園祭実行委員会	208
						計	344
						合計	1432

区分	新入生		在学生		合計					
	在籍数	加入率 %	在籍数	加入率 %	在籍数	加入率 %				
大	6年度	351	239	68	1026	568	55	1377	807	59
	7年度	403	257	64	1036	628	61	1439	885	62
短大	6年度	894	221	25	853	215	25	1747	436	25
	7年度	938	291	31	894	256	29	1832	547	30
計	6年度	1245	460	37	1879	783	42	3124	1243	40
	7年度	1341	548	41	1930	884	46	3271	1432	44

このシリーズでは、からだの仕事に始まり、最近注目を集めている、肥満、糖尿病、高血圧と食事との関係や、食事と癌との関係など、日常生活の中でよく耳にする問題について、分かりやすくそれぞれの専門分野からの見解がま

とめられている。
飽食の時代を迎え、グルメ意識が高まるなか、ほんとうの意味での食と健康のあり方を問う、このシリーズには大きな意義があると思われる。

カール・ルイス —アマチュア神話からの脱出

著者：カール・ルイス
訳：山際淳司



児童教科助手
原崎 聖子

一九九一年夏、東京世界陸上選手権四〇〇メートル決勝を観戦した。高野進に対する圧倒的な応援に興奮冷めやらない帰りの道で、カール・ルイスの勝ち誇った姿のポスターと、この本「カール・ルイス—アマチュア神話からの脱出」に出会った。この物語は、ポスターとは裏腹な彼の児童期から始まっていた。
「ちびでのろまな少年だった」これがあのオリンピックの王者カール・ルイスの姿であるらしい。実際、掲載されている少年時代の写真を見ても、自信のかけらも感じられない。その臆病な少年カールが、公民権運動でのキング牧師、陸上の神様ジェシー・オーエンス、ヒューストン大学のトム・テレスコーチ、音楽家ナグラ・ウォルデン、宗教家スリ・チンモイなど実

に多彩な人間達との出会いにより自己を大きく変革していくのである。
しかし、この本は単なるカールの成長記録にとどまるのではなく、アメリカ社会におけるマスコミ報道の問題点や、ドーピングを始めとする現代オリンピックの裏話について実名入りで語り、時には痛烈に批判している。そこには、スポーツを、観客に「ドラマ」として提供する者の真摯な態度が感じられる。そしてこの場面にも一貫して流れているのはルイスの家族愛であった。父親ビル・ルイスの棺に金メダルを納めた話は、あまりにも有名である。
訳者、故山際淳司の手にかけられるように話が展開し、始めてスポーツを読んで楽しんだ一冊であった。

平成七年度

科学研究費補助金 七件に対して交付

文部省から交付される科学研究費補助金が、次のとおり決まった。

〔重点領域研究〕

◎古相 正美講師(代表)

〔研究課題名〕近世期文人に関する伝記および人的ネットワークの総合的研究

―マルチメディアによる伝記データの整備と検索システムの構築―

〔補助金交付額〕二百二十万円

〔一般研究C〕(以下区分省略)

◎梅埜 國夫教授(代表)

真野 素近助教授(分担)

西山えりな助手(分担)

〔研究課題名〕初等理科教育用語の標準化に関する基礎的研究

〔補助金交付額〕百二十万円

◎吉村 英敏教授(代表)

加藤 祥子助教(分担)

古賀 信幸助教(分担)

大石奈穂子助手(分担)

〔研究課題名〕肝酵素誘導あるいは阻害作用を示す食品成分の探索とその安全性評価

〔補助金交付額〕百二十万円

◎阿部志摩子講師(代表)

〔研究課題名〕細胞外のイオン環境変化が血管の反応性と細胞内カルシウム動態に及ぼす影響―マグネシウムとカルシウムについての検討

〔補助金交付額〕百万円

◎林 辰美助教(代表)

〔研究課題名〕小中学校生徒における成人病予防のための集団的力学的栄養指導の方法と効果に関する研究

〔補助金交付額〕六十万円

◎三成 由美講師(代表)

楠 喜久枝教授(分担)

〔研究課題名〕在宅要介護高齢者の給食サービスシステムとヘルパー教育に関する評価

〔補助金交付額〕五十万円

◎笠原 正洋講師(代表)

〔研究課題名〕保育志望学生のもつ暗黙の信念が育児不安場面の理解に及ぼす影響

〔補助金交付額〕八十万円

※研究分担者の掲載は、学内の研究者のみ掲載。

佐藤鉄太郎講師の研究

NHK教育テレビで紹介される

さる六月六日、NHK教育テレビ「NHK教育セミナー歴史で見る日本」で、佐藤鉄太郎講師の研究が紹介された。

番組では、佐藤講師の著書である「蒙古襲来絵詞と竹崎季長」の

一部を紹介し、蒙古襲来絵詞という絵巻物の中に、作成された鎌倉時代の絵だけでなく、江戸時代に書き込まれた絵があること等、従来の研究と異なる新しい発見や見解を述べていることが紹介された。

暑かった夏が駆け足で去り、涼しい秋風とともに、後期の講義が始まった。いつもと同じような教室だが、休み明けの教室は、床もワックスがかかりピカピカで気持ちがいい。

きつと用務員のおじちゃんやおばちゃん、暑いな、汗だくな、磨いてくれたんだなあと思うと、消しゴムのくずさえ落とすのが気にかかる。なのに、私が着いたこの

テーブルの中には、もうごみがある。すぐそこにごみ箱があるのに、何で持っていないのだろう。

私は、前にもいやな思いをしたことがある。今日と同じように、講義をうけようと席

机の中のコップ

置き去られた
飲みかけのジュース

こんな体験をしたのは、私だけだろうか？ 私は、汚い教室で講義を聞きたくない。きつと、みんなもそうだと思うよ。ごみは、ちゃんとごみ箱に捨てようよ。

私のおばあちゃんと同じく、私の年の人たちが、私たちが捨てたごみを片づけてくれる姿を見ると、何だか淋しくなる。

(ある学生の話をもとに、企画広報室でまとめました。)

(こぼれ話)

私が着いたこのテーブルの中には、もうごみがある。すぐそこにごみ箱があるのに、何で持っていないのだろう。

私は、前にもいやな思いをしたことがある。今日と同じように、講義をうけようと席

私のおばあちゃんと同じく、私の年の人たちが、私たちが捨てたごみを片づけてくれる姿を見ると、何だか淋しくなる。

(ある学生の話をもとに、企画広報室でまとめました。)

大学と短期大学の同窓会支部が相次いで増設された。まず、短期大学が五月に鹿児島支部を、続いて、大学が七月に関東支部を開いた。

本学園では短期大学が昨年創立四十周年を迎え、今年が大学が創立三十周年の年にあつてゐる。

新支部の開設は、こうした節目の年にあたり、同窓会組織のさらなる活性化と強化をはかる切っ掛けとなる。七月二日に

東京千代田区のおか会館で開かれた大学の関東支部発会式には、同地区在住の会員三十五名と本部役員及び中村理事長ら教職員十五名も出席。支部の開設を祝った。出席したOBからは、「待ち望んでいた支部がやつと出来、これからのネットワークづくりが楽しみ」との声も聞かれた。

大学関東支部及び短期大学鹿児島支部の支部長と支部会員数は、次のとおり。

(大) 学) 関東支部長 原 春江さん
(児童学科昭和四十九年度卒)
支部会員数 三百六十二名

(短期大学) 鹿児島支部長 永飯 秀子さん
(食物栄養科昭和三十六年度卒)
支部会員数 二百五十名

大学・短期大学同窓会支部を増設

大学 関東支部 短期大学 鹿児島支部



△発会式での記念撮影(右 大学、左 短大)

海外出張の記録

氏名・職名 ①訪問国・期間
②目的

▶梅埜 國夫 教授

- ①タイ国 (7/2~7/9)
- ②国際生物学オリンピックにオブザーバー参加

▶原 孝之 助教

- ①スイス (7/21~7/29)
- ②P-450国際会議研究発表

▶山藤 圭子 教授

- ①アメリカ (9/10~9/15)
- ②国際キニンシンポジウム研究発表

▶今泉 憲治 助教

- ①シンガポール (8/3~8/7)
- ②アジア国際美術展覧会研究発表

▶西岡 弘晃 教授

- 鶴田 八郎 助教
- ①オーストラリア (8/4~8/30)

②英語・文化海外研修引率

▶権藤 興志夫 教授

- ①中国 (9/7~9/17)
- ②中国(北京)訪問調査

▶山内 須美子 助教

- ①中国 (10/6~10/12)
- ②アジア栄養学会議研究発表

▶石西 伸 教授

- ①ドイツ (10/3~10/12)
- ②福岡市港湾局欧州視察

▶谷口 巳佐子 教授

- ①中国 (10/4~10/19)

②アジア栄養学会議研究発表

▶広井 祐三 助教

- ①中国 (10/5~10/12)
- ②アジア栄養学会議研究発表



アジア国際美術展の奨励賞作品となった今泉教授の「ELEPHANT ACCIDENT in RED」

学園往来

- H 7. 7. 3 韓国光州市の光州大学から金 基中教授を始め30名が教育研修のため、本学を訪れた。
- H 7. 8. 16 大学食物栄養学科の外国人研究員、馬 吉春氏が1年間の研究を終え、帰国した。

教職員の動き

▽昇任・昇格・配置換等
(平成七年十月一日付)

法人本部 山見 昌弘	法人本部 山見 昌弘
財務部長 山見 昌弘	法人本部 山見 昌弘
法人本部 上森 啓史	短大・大学 事務部長 上森 啓史
事務部長 上森 啓史	短大・大学 事務部長 上森 啓史
事務部長 中川 幸広	短大・大学 事務部長 中川 幸広
事務部長 中川 幸広	短大・大学 事務部長 中川 幸広
事務部長 辻原 陽一	短大・大学 事務部長 辻原 陽一
事務部長 辻原 陽一	短大・大学 事務部長 辻原 陽一
事務部長 坂井 洋隆	短大・大学 事務部長 坂井 洋隆
事務部長 坂井 洋隆	短大・大学 事務部長 坂井 洋隆
事務部長 勝本美寿恵	短大・大学 事務部長 勝本美寿恵
事務部長 勝本美寿恵	短大・大学 事務部長 勝本美寿恵

国民年金に
学生も全員加入を

二十歳になると、国民年金に入ることが、法律で義務付けられています。在学中、病気やケガで障害になった場合の障害基礎年金の受給や、老後に満額の老齢基礎年金が受けられるように、学生も二十歳になったら加入手続きをすることが必要です。

保険料が納付困難な場合は、特別な免除基準もあります。国民年金の加入や資格喪失の手続きは住民登録をしている市区町村の年金係が窓口となっています。

なお、支払った保険料全額は、年末調整や確定申告の際に、社会保険料控除されます。

故重松教授のご遺族から寄付金

去る四月に逝去された故重松勉教授のご遺族から、香典の一部が中村ハル育英奨学金基金として寄付された。

この奨学制度は、学園祖中村ハル先生の意志に基づき創設され、学業・人物ともに優秀な学生を対象に給付されている。今回寄付があった基金は、この奨学生として選ばれた学生のために役立てられることになる。

中村学園大学
中村学園短期大学
企画広報室



△オーストラリア セントキルダビーチの夕日 (海外語学研修から)